

連作絵本 **想像**という現実～7

異常者への手紙

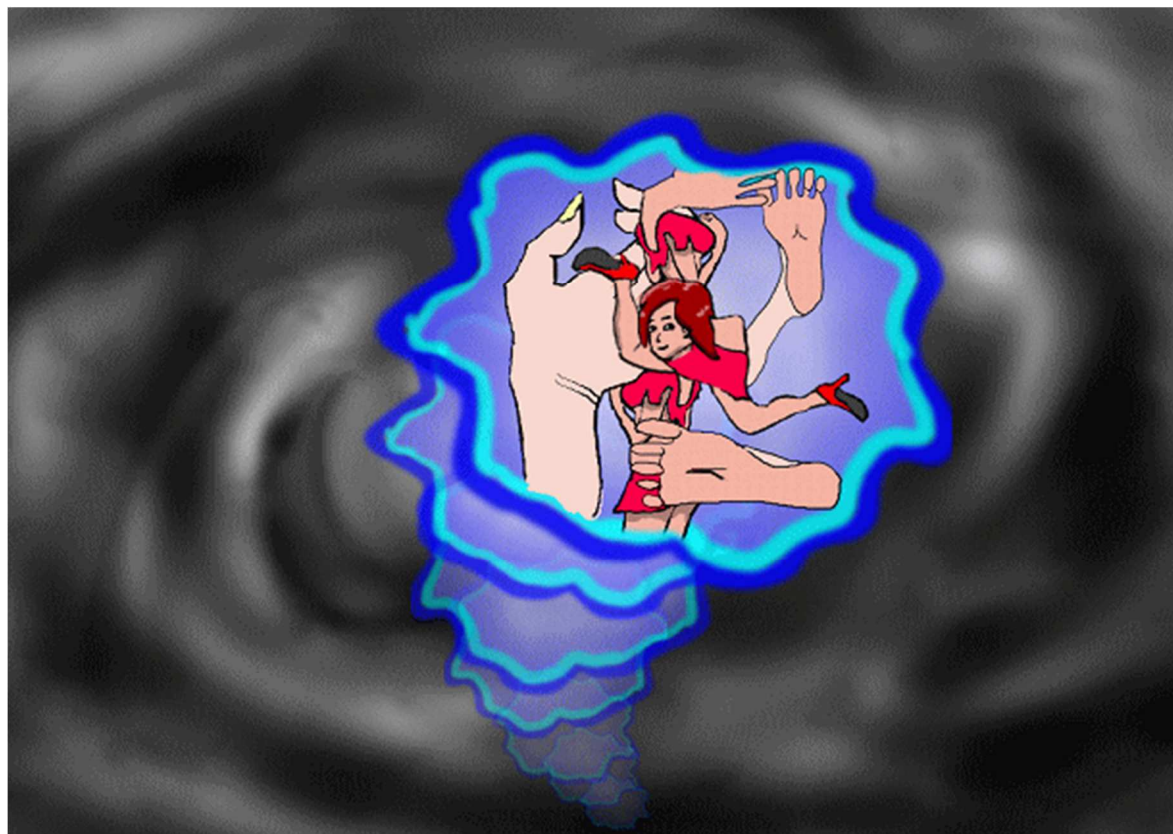
一病的なSM、快樂殺人など異常性欲に取り付かれた方へー



東郷 潤

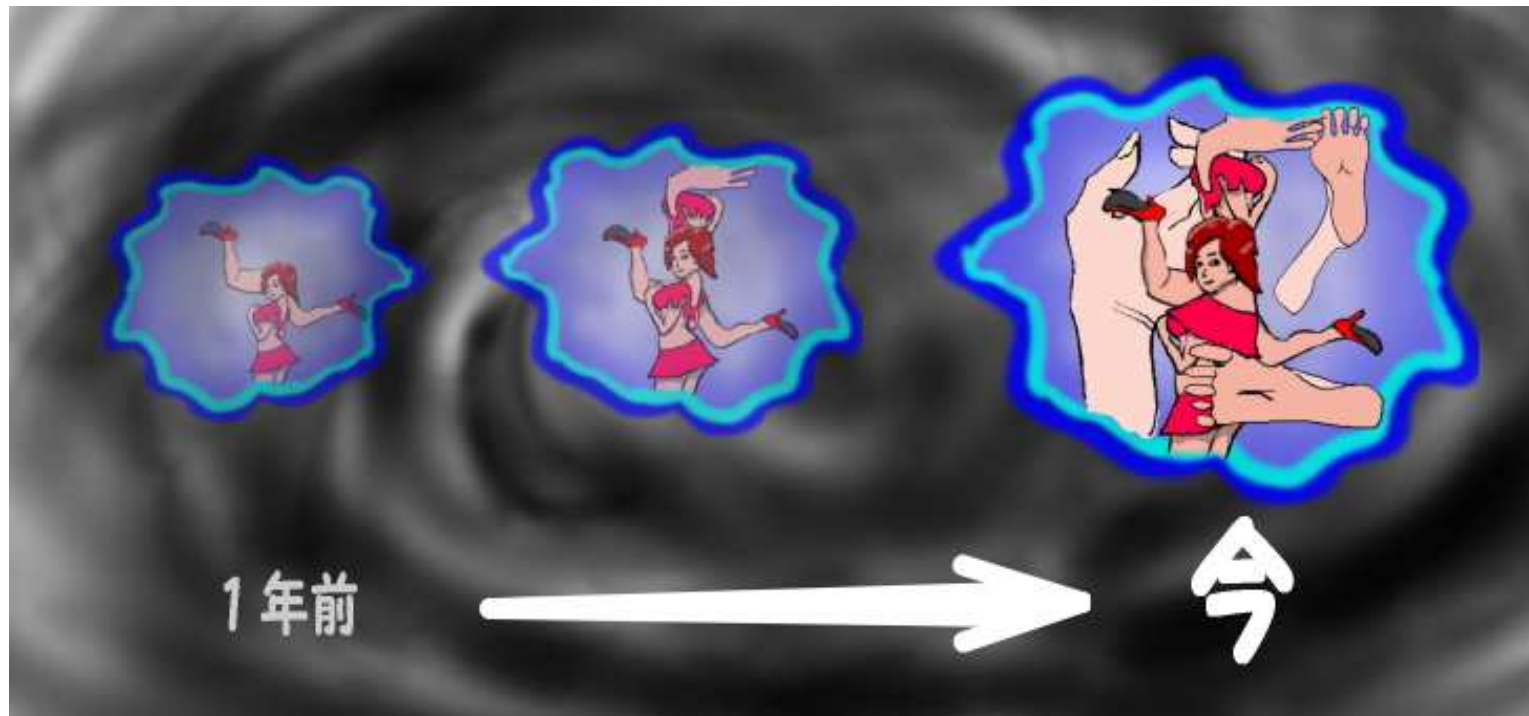
ねえ、そこの君。

一人で、過激な妄想を膨らませているの？

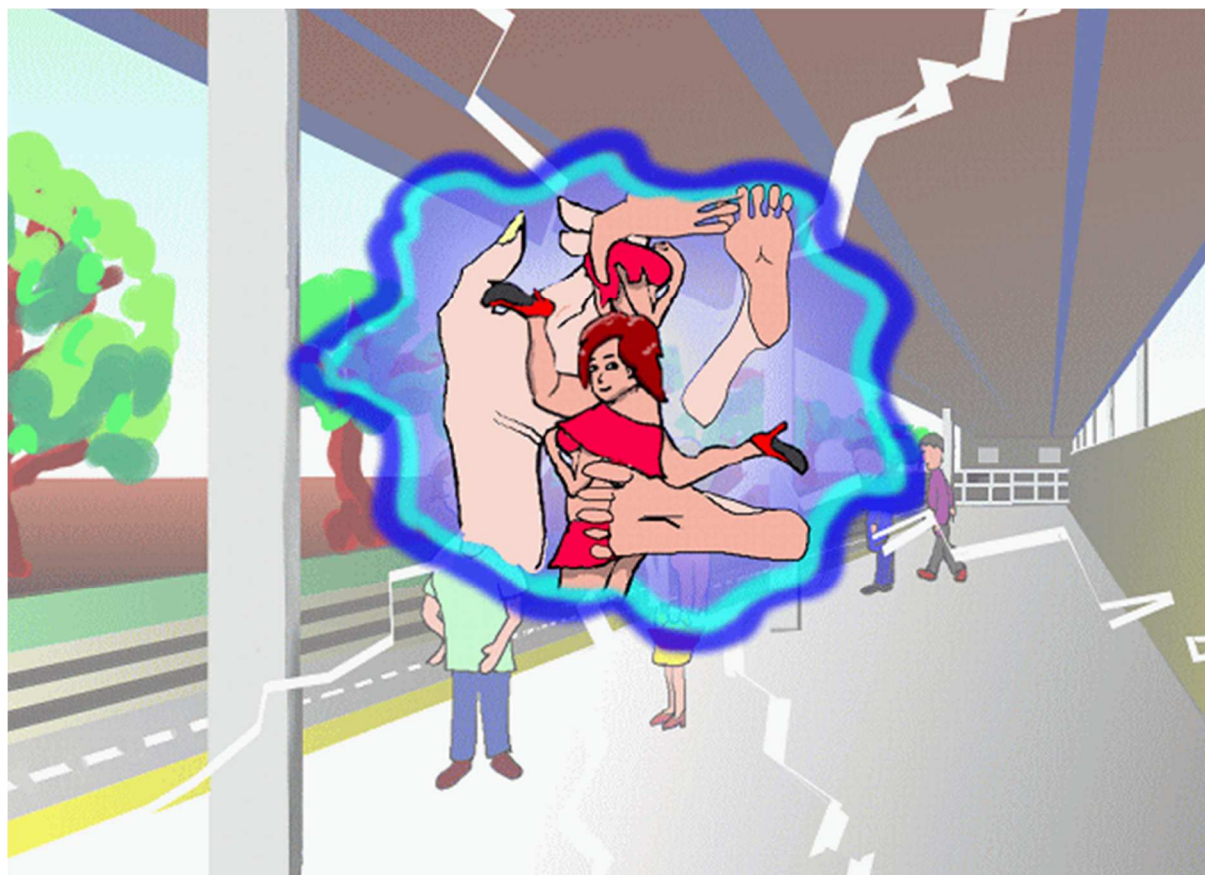


一つ、当ててみせようか。

最近、君がお気に入りの妄想は、1年前のものよりも過激なはずだよ。・・・それに、現実感も増しているね。



そして君は、妄想が日々成長していき、君の現実を侵食していくことに、とまどいを感じ絶望しかかっている。僕は普通じゃないって。…君はもう精神病院には、行って見たかい？ それとも君はもう抵抗することを諦めて、「俺は人間じゃない。悪魔だ」って、信じてつあるのかな？



では改めて聞くけれど、君の妄想がより過激に、そして、より現実的になる一方で、本物の現実がどんどん希薄になってきたのは、なぜだと思う？ 何が現実で何が妄想か、君の混乱は増すばかりだ。



・・・そう、そんな風に、君は思ってるんだ。でもね、君の妄想が過激に／現実的になって、その分、本物の現実が希薄になるのには、ちゃんとした理由があるんだよ。もし君に興味があるなら、それを教えてあげる。・・・でも、そのためには君の協力が必要。ちょっと協力してくれるかい？

協力して頂ける方は、次頁へお進みください。

協力を約束してくれて、ありがとう。じゃ、最初に、君の妄想が過激になる理由を教えよう。そのためにお願いしたいのは、君のリミットを外すこと。一切の理性を捨てること。…そして、君に思いつく限りの、過激で邪悪な、君が一番興奮する妄想を作り出して欲しい。

妄想を実行しろ、と言ってるんじゃないよ。あくまでもこれは、想像だけさ。

どうせただの想像だからね、遠慮することなんかない。実行できる／出来ないとか、道徳とか、理性とか、そんなものは全部捨てちまって、もっとも過激で邪悪な妄想を作って欲しい。…さあ、思いっきり過激な想像、君が一番、興奮する、究極の妄想だよ。

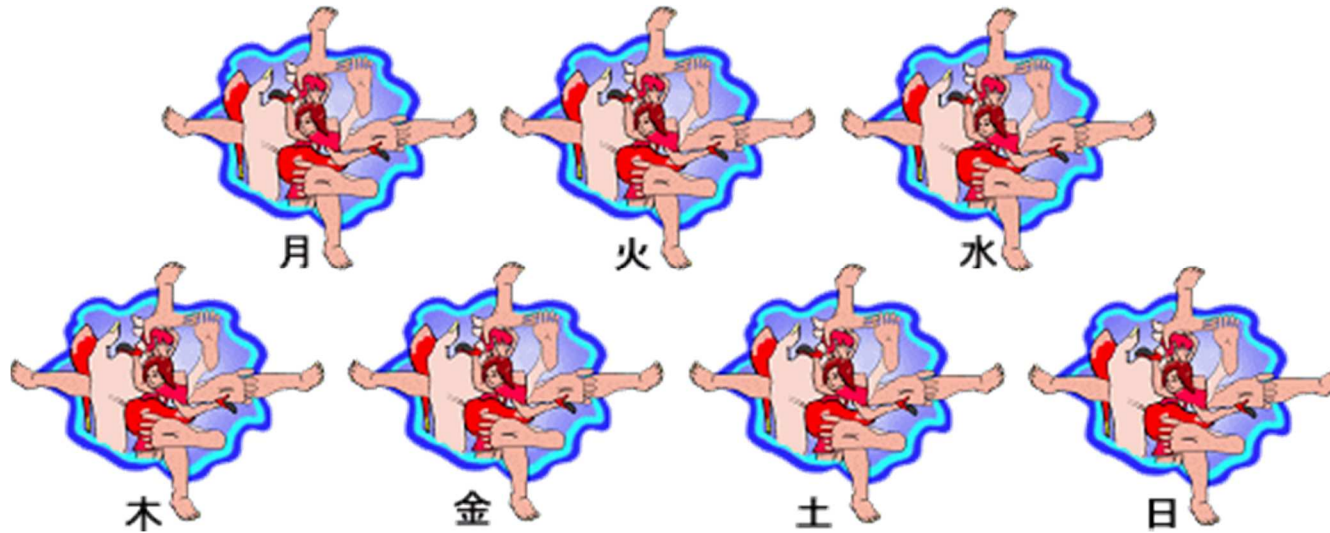
出来たかい？



…どうやら、君の究極の妄想、完成したみたいだね。 それじゃ、今、君が作り上げた妄想を、何度も何度も繰り返し想像して、心ゆくまで楽しんで欲しい。

期間は1週間。 1つ、お願いしておきたいのは、君が楽しむのは、あくまでも同じ妄想だということ。

一切の細部をも変えないで欲しい。



それじゃ、1週間後にお会いしましょう。

…1週間、同じ妄想を続けてくれたね？ ありがとう。

ではここでまた、君の心を当ててみせよう。

●君は、この1週間の間に、もっと興奮する妄想を思いついた。

当たったね。

それじゃもう一つ、当ててみせるよ。

●今の君は、1週間続けたその妄想で、もう、それほど興奮しない。

どう？ これも凶星だったでしょう？

さあ、ここで1週間前のことを思い出して欲しい。

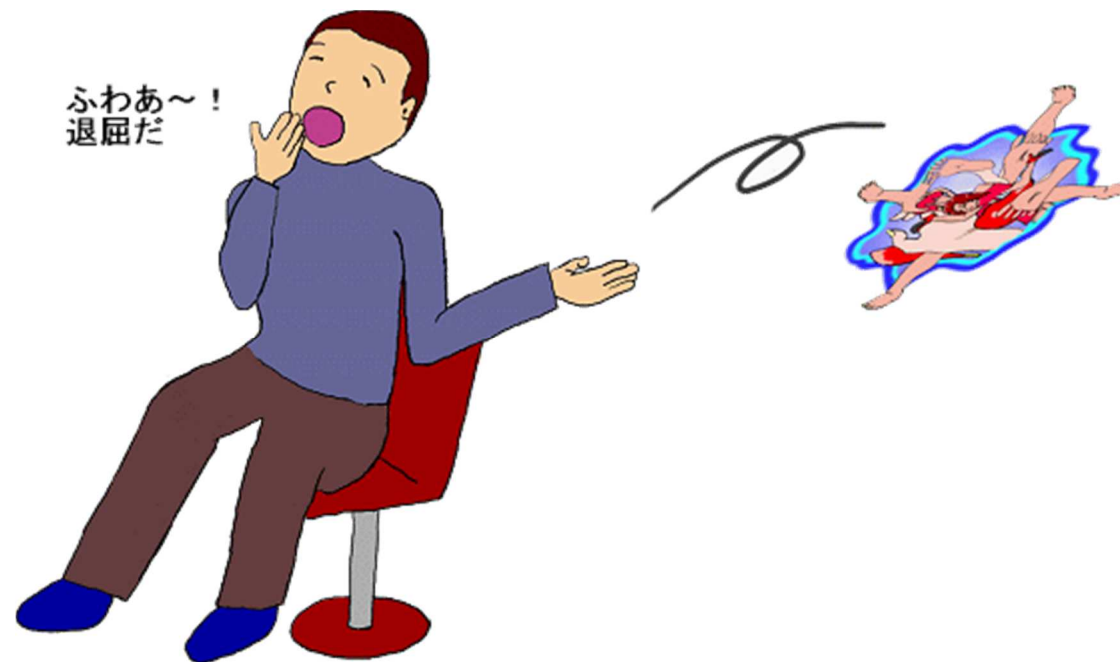
君が作った妄想は、最も過激で邪悪なものだったよね。その妄想に今、君は興奮しない。 —それは過激

さや邪悪さが足りないからじゃないよ。

じゃ、何が原因だと思う？

?

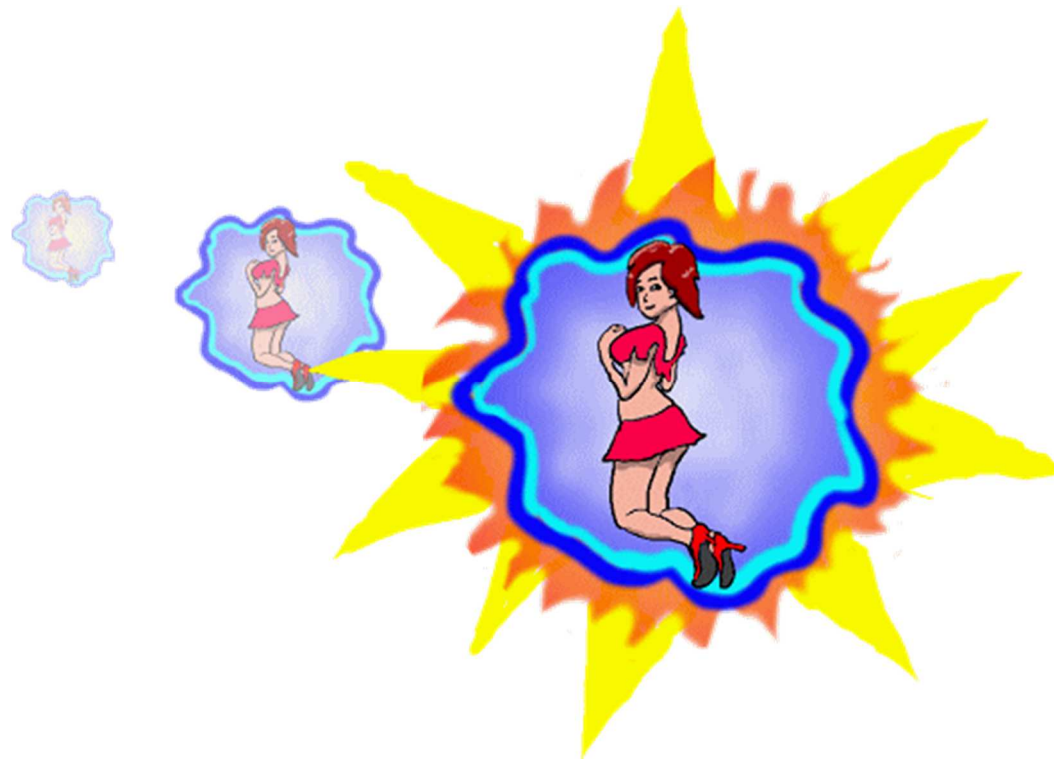
答えは簡単さ。君はね、飽きちゃったんだよ。



どんなに面白い漫画だって、1週間、同じものを読み続けたら飽きちゃうだろ？ 妄想だって、それと全く同じことさ。…少なくともその点に関しては、君はごく普通みたいだね。そしてこれが、妄想が過激化する理由でもある。 —どう？ 意外に簡単だったろ？

次は、「妄想」がより現実的になる一方で、「現実」が日々、希薄になっていく理由だよ。君の妄想と現実がグチャグチャになって、何がなにやら、分からなくなってきた理由さ。

それはね、妄想が現実的でなければ、困るからさ！！

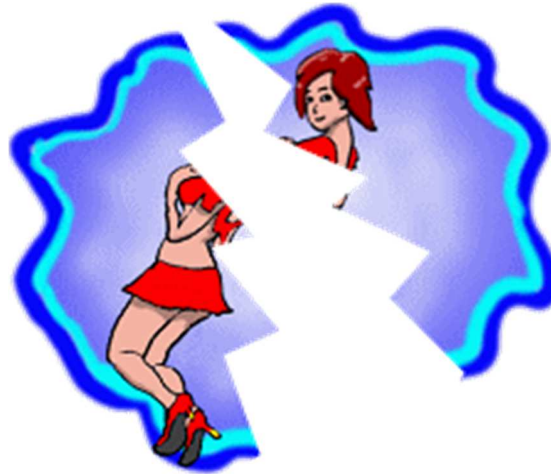


いいかい、妄想は君の娯楽、妄想は君の癒し、妄想は君の友人、妄想は君の恋人、妄想は君の愛！
その妄想が現実的じゃなかったら、空しいだろう！？ 耐えられないよね！？

そもそも君は現実社会の、残酷・冷たさ・暗黒から抜け出したいくて、愛しの妄想を作ったんだ。だけど君の周りの現実は、非情にも君の妄想とは無関係に動く。どれほど君の妄想が大事なもののなのか、「現実の人間」はさっぱり分かってくれない。それどころか、妄想は妄想に過ぎないって、いつも君に思い知らせようとする。



つまり、現実**は**妄想の敵！　　**そ**う**い**う**現**実**を**君**が**認**め**て**し**ま**っ**た**ら**、君**の**大**好**き**な**妄**想**が、せ**っ**か**く**
育**て**た**恋**人**が**、た**っ**た**一**人**の**大**切**な、**大**切**な**恋**人**が、壊**れ**ち**ゃ**う**ん**だ**！**！



だから、君**は**愛**す**る**妄**想**／**恋**人**の**た**め**に**、**現**実**を**否**定**す**る**。そ**し**て**恋**人**の**現**実**感**を**高**め**よ**う**と、恋**人**に
命**が**け**で**尽**く**す**ん**だ。む**ろ**ん、君**が**否**定**す**る**た**び**に、**現**実**は**、現**実**感**を**失**う**。そ**し**て、**妄**想**は**そ**の**分、
現**実**感**を**高**め**て**い**く**・****・****・**。

わかるかい？

妄想がより現実的に、現実がより希薄になっていくのは、
君がやっていることなんだよ！



ところで君はもう、自分の妄想を、少しずつ現実世界で実行し始めたのかい？　・・・そう、君にとって、妄想の彼女は現実に存在している。そしていつも甘く、君にささやき続けている。



「愛しているわ。

あなたになら、殺されてもいいの」

それじゃここで、もう1つ、当ててみせよう。

君の妄想を現実に実行しても、本当に興奮したのは一瞬だけ。そして結局、今も君は愛に乾いている。



どう、これも凶星だったろ？

妄想を現実に実行してみて、すぐに何かが違うと君は思った。もちろん、すごく興奮する瞬間はあったさ。でも、そのあと、すぐにシラケテしまった。何かが狂ってしまった。そして、君は、今まで以上の空しさ／味気なさ／白々しさを感じてしまったね。

もしかすると、今度こそ、うまくやるって、君はそう思っているかい？ あの時は、ちょっと失敗した。次やるときこそは、最高の快樂を得られるはずだって。

そして、君は今度こそと次の成功を夢見て、何回も君の妄想を実行し続けるかもしれない。今度こそ、シラケないでやる。今度こそ、最後まで興奮する。今度こそ、最高の快樂を得る。今度こそ、うまく行く。



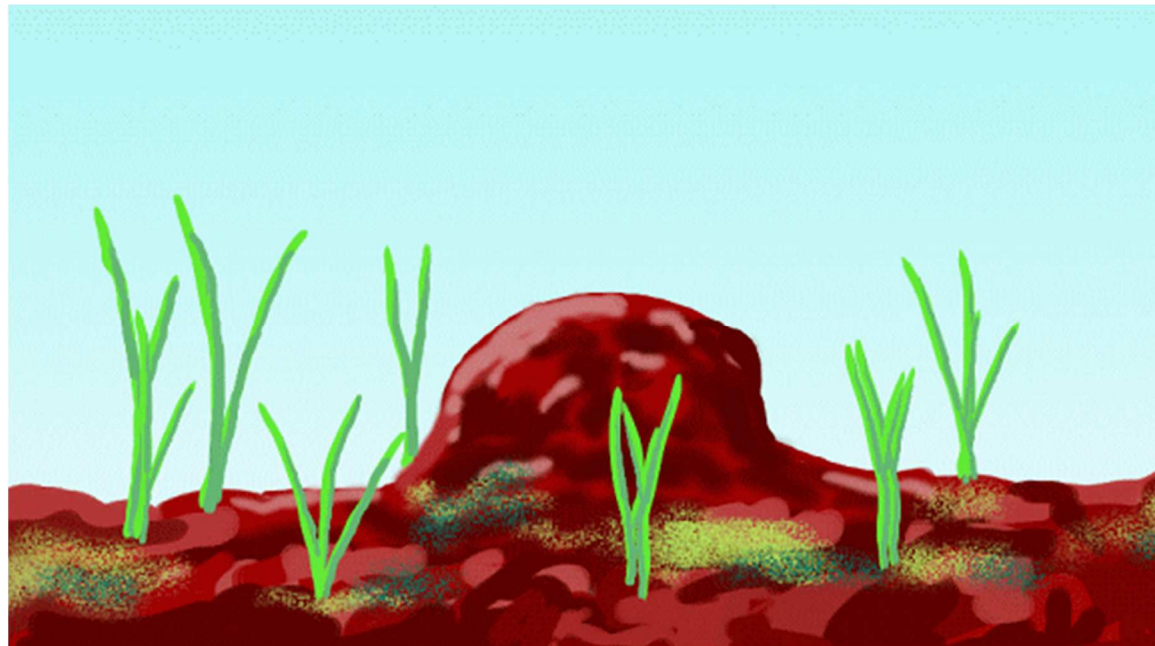
でもね、残念ながら、君は永遠にうまくやれない…

だって彼（女）が
君に殺されたがっているなんて（〇〇されたがっているなんて）
やっぱり君の、ただの想像なもの！



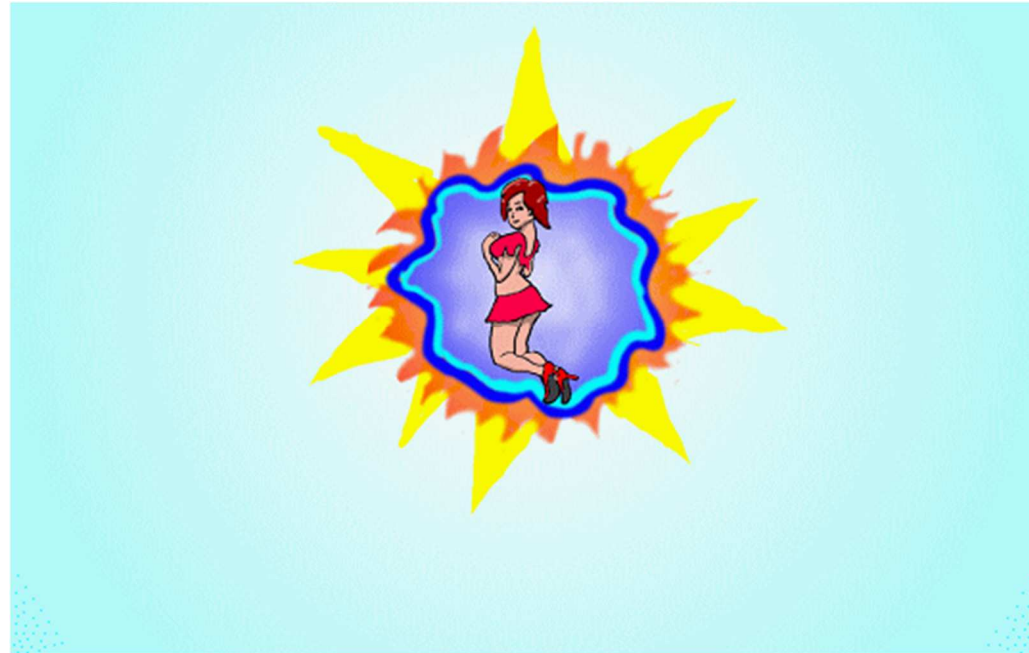
そこの暗さ、分かるかい？・・・君が今、いる場所のことだよ。

絶対的な孤独。ひりつくような愛への飢え。そこにいるのは、発狂するほど辛い。そこは地獄だ。だから君は、脱出しようと必死になって、もがいている・・・



でもね、それじゃ出れないよ。・・・君は出口に向かってないもの。

出口、見つけたいだろ？・・・ならば、出口の見つけ方も教えてあげる。これが君に贈る僕の最後の話だから、真剣に聞いて欲しい。・・・さあ、君が愛する妄想、まるで太陽のように輝いているだろ？君は長い年月、妄想を愛し続け、彼女を輝かすために、本当に必死でがんばって来たものね。



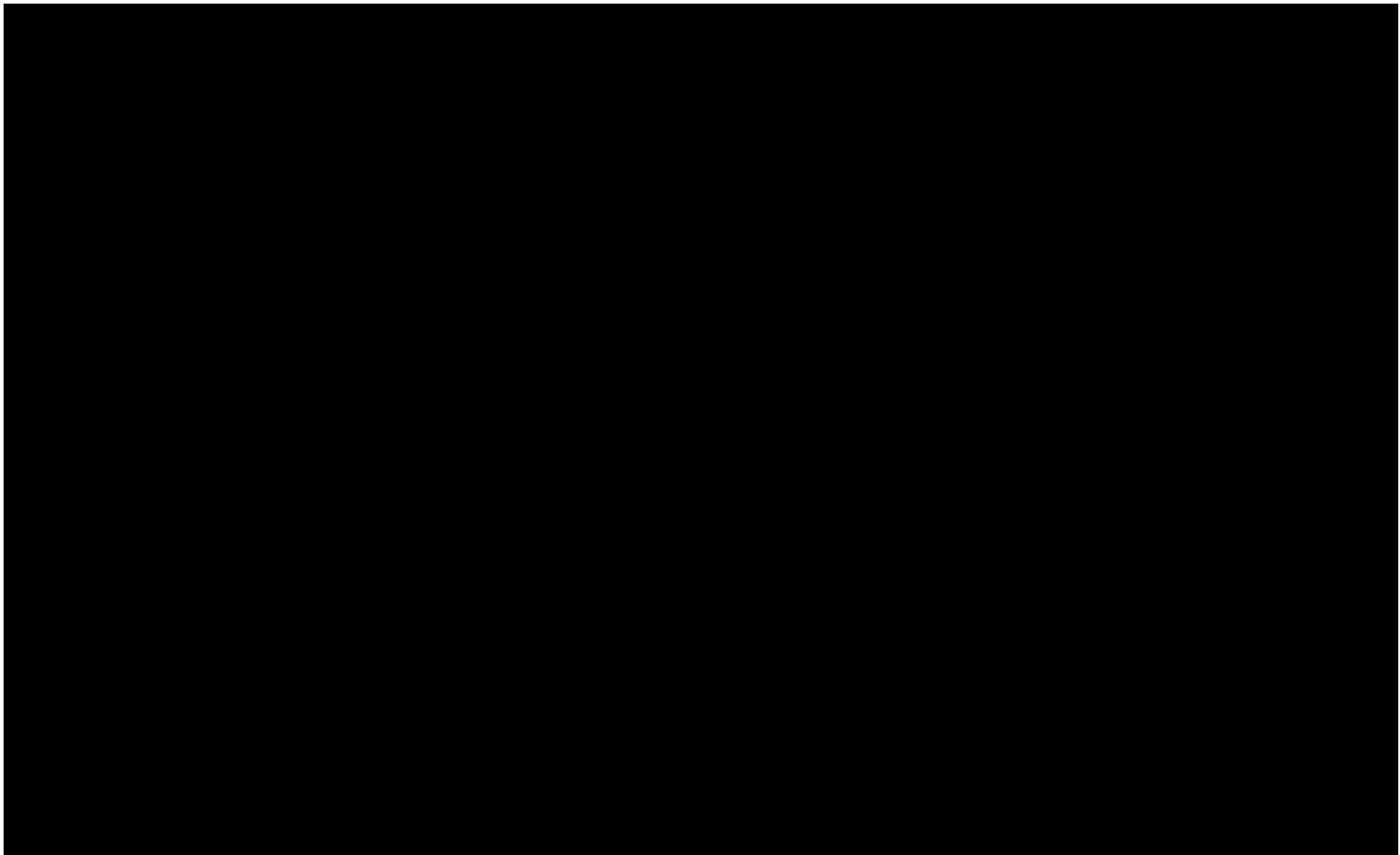
でもね、太陽の前で星は見えない。分かるだろ？

もうちょっと暗くしてくれないと、本物の出口は見えないよ。 **だから、**

**暗黒を見つめて！
圧倒的な孤独に、泣き叫んで！
ひりつく愛の渴きに、絶叫して！**









そしたら出口
見えてくるから！

あとがき 一絵本「異常者への手紙」

この絵本は、連作絵本「想像という現実」の7作目という位置づけで執筆したものです。

もし、あなたがこの絵本に共感されたなら、出来るだけ多くの方に、読ませてあげていただければと思います。

本絵本は、自由にコピーして下さって結構です（商業出版はじめ金銭的な授受を伴う場合を除きます）。また下記WEBからは、東郷潤の他の絵本やメッセージをダウンロードすることができます。

www.j15.org